

日本人の読み書き能力1948年調査のナゾ

横山詔一（国立国語研究所） email : yokoyama@ninjal.ac.jp

2023年9月6日（水）人間文化研究機構主催 文部科学記者会・科学記者会 メディア懇談会

1. 日本の成人男女を対象にした全国規模の読み書き能力調査は、これまで一例あるのみで、第2次世界大戦後の米国の占領政策のもと1948年に実施された
2. その調査の報告書（1951）は「日本人の読み書き能力は極めて高く世界トップクラス」という「常識」の科学的根拠とされてきたが、その「常識」は再検討の余地がある
3. 上記の再検討には、報告書（1951）ならびにその関連史料を世界中の研究者がいつでも簡単に閲覧できるような環境整備が必要である。すなわち、オープンサイエンスの推進が重要

• 本日の発表の出典

横山詔一・相澤正夫・久野雅樹・高田智和・前田忠彦（2022）「『日本人の読み書き能力』（1951）における非識字率の再検討—テストとしての問題点を中心に—」『基礎教育保障学研究』6, 11-28 https://doi.org/10.32281/jasbel.6.0_11（J-STAGEで公開）→ 以下、**横山・相澤・久野・高田・前田（2022）**と略称

解説動画（7分42秒） → <https://youtu.be/KyWodia8ykk>

I. 日本人の読み書き能力1948年調査はGHQの提案によって実施された

GHQ占領期の略年表（日本：黒字、海外：青字）

	政治・経済・社会	教育・言語政策
1945年	8月、第二次世界大戦終わる。マッカーサー来日。GHQの日本占領開始、 民主化・非軍事化を推進	
1946年	1月、天皇「人間宣言」。3月、チャーチル「鉄のカーテン」演説、 冷戦の始まり 。4月、戦後初の総選挙（婦人参政権の実現）。11月、日本国憲法公布	3月、 第1次アメリカ教育使節団『報告書』 でローマ字採用を勧告。11月「当用漢字表」「現代かなづかい」内閣訓令・告示
1947年	5月、日本国憲法施行。12月、改正民法公布（家制度廃止）。内務省解体	2月、文部省「ローマ字教育実施要項」公表。3月、教育基本法、学校教育法公布
1948年	8月、 大韓民国成立 。9月、 朝鮮民主主義人民共和国成立 。11月、極東軍事裁判。対日占領政策の 経済復興重視への転換	2月「当用漢字音訓表」。8～10月、 読み書き能力調査実施 。10月、文部省教科書『民主主義上』。12月、 国立国語研究所創立
1949年	4月、 NATO成立 。10月、 中華人民共和国成立 。11月、湯川秀樹にノーベル物理学賞	4月「当用漢字字体表」。8月『民主主義下』刊行
1950年	2月、 米マッカーシー旋風の始まり 。6月、 朝鮮戦争勃発 。7月から年末、企業のレッドパーシ	9月、第2次アメリカ教育使節団、ローマ字教育の改善勧告
1951年	4月、マッカーサー解任。9月、サンフランシスコ講和条約調印。日米安全保障条約調印	4月『 日本人の読み書き能力 』刊行
1952年	4月、連合国の日本占領（事実上、米国の単独占領）の終結。 GHQの廃止 。日本の主権回復	

1945年8月30日14時05分、厚木海軍飛行場に到着したマッカーサー氏。これから横浜市のホテルニューグランドに向かう



- 日本人の読み書き能力1948年調査は、『第1次アメリカ教育使節団報告書』（マックアーサー司令部公表、1946）に端を発する → 教育使節団報告書は男女共学やPTAなど現在の教育制度の源
- 連合国最高司令官総司令部（General Headquarters、Supreme Commander for the Allied Powers、略称GHQ/SCAP）の民間情報教育局（CIE）の提案によって実施
- GHQが作成した調査企画書（英文）「Literacy Research Program」と、その和訳文書が国立国語研究所に保管されている。デジタル画像もネット公開されている

<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=literacyrpen>

<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=literacyrpjp>

参考文献：高田智和ほか（2021）「1948年読み書き能力調査の企画書「Literacy Research Program」について」『日本語学会2021年度秋季大会予稿集』 31-36

II. 日本人の読み書き能力1948年調査の学術的意義は多くの研究分野において高く評価されている

1948年調査の報告書『日本人の読み書き能力』（1951）はさまざまな研究分野の出発点となった

1. 科学的なリテラシー調査の出発点
2. 日本における世論調査（内閣支持率調査など）や選挙予測調査の出発点
3. 大学入試センター試験等の大規模学力テストの出発点（肥田野直、2020、2021）
4. 日本における社会言語学の出発点
5. 日本におけるコーパス言語学（語彙調査、用語用字調査）の出発点
6. 国立国語研究所（1948年12月20日創立）の出発点



柴田 武



林 知己夫



肥田野 直

III. 日本人の読み書き能力1948年調査の報告書（1951）は「日本人の読み書き能力は極めて高く世界トップクラス」という「常識」の科学的根拠とされてきたが、その「常識」は再検討の余地がある

どんな問題だったのか？

- 問題用紙の大きさ
ヨコ36.9センチ、タテ26.2センチ（ほぼB4判ヨコ）
- 問題用紙は6枚
- 文字は手書き、活字ではない

問題用紙の1枚目

以下の3問が印刷されていた

- 問題1 試験官の発音した語をひらがな、カタカナで書く（8問）
- 問題2 数字、漢数字の書き取り（2問）
- 問題3 試験官の発音した語を選択肢から選ぶ：表記はひらがな、カタカナ、数字、漢数字、5択（12問）

次のスライド参照



ネネネネネ△
ヨコピロユ

ああらああたあ
あひま まま まま まま ○

ガカラアかザ△
ラララララ
ススススス

さもちなき□
るるるるる

ミミミミミ△
シシシシシ
ツレいシン

たたたたた□
ははははは
こここここ

オオオオオ△
モモモモモ
ツチチチチ

みみみみみ□
かかかかか
むしソんあ

マママママ△
アチチチチ
チチチチチ

こんこんこんこん□
んにょくにゃくにあく
くくくく

丸入八七四×
円円円円円

あさあさあさあさ□
あさてあさんあてあて
あさてあさんあてあて

8キ口 3キ口 4キ口 5キ口 1キ口 ×

(三)

たいしょうにねんはちがつにじゅうはちにち
○大正2年8月 日

めいじにじゅうはちねんくがつじゅうろくにち
明治28年9月 日

(二)

●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	○

(一)

●●●●	●●●●	●●●●	●●●●	○

○ 三丁目 さんちようめ
 五丁目 ごちようめ
 番地 ばんち
 番地 ばんち

26.2cm

36.9cm

調査結果の示し方は

- 報告書（1951）には数表が示されているだけでグラフがほとんどない
- 属性間のクロス集計表が網羅的に掲載されているわけではない（男女別の表が欠けているなど）

- 右は報告書に掲出されている数表の例、総得点と年齢のクロス表
(報告書589頁)

<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjalldl/yomikaki/012/jpg/ymkk012-091.jpg>

- 問題は90問、1問1点で採点
- リテラシーを持つ人を「90点満点の人」と定義している
- 非識字者(文盲の人)を「ゼロ点の人」と定義している

第37表 γ_{au}^t 総得点×年齢別構成

code		19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	
点数		90	89 85	84 80	79 75	74 70	69 65	64 60	59 55	54 50	49 45	44 40	39 35	34 30	29 25	24 20	19 15	14 10	09 05	04 01	00	計
15~19	市部	21 2.7	256 25.4	233 23.2	162 16.7	108 10.7	62 6.2	43 4.3	38 3.8	16 1.6	17 1.7	16 1.6	10 1.0	8 0.8	6 0.6	5 0.5	3 0.3		1 0.1			1005 100.0
	郡部	9 0.4	317 14.1	390 17.4	291 13.0	272 12.1	201 9.0	156 7.0	130 5.8	108 4.8	83 3.7	73 3.3	55 2.5	50 2.2	32 1.4	28 1.2	24 1.1	10 0.4	5 0.2	5 0.2	5 0.2	2244 100.0
	全国	30 0.9	573 17.6	623 19.2	453 13.9	380 11.7	263 8.1	199 6.1	168 5.2	124 3.8	100 3.1	89 2.7	65 2.0	58 1.8	38 1.2	33 1.0	27 0.8	10 0.3	6 0.2	5 0.2	5 0.2	3249 100.0
20~24	市部	77 9.7	396 49.5	154 19.3	62 7.8	37 4.6	17 2.1	18 2.3	7 0.9	8 1.0	4 0.5	2 0.2	5 0.6	3 0.4	2 0.2	2 0.2	2 0.2	1 0.1	1 0.1	2 0.2	1 0.1	801 100.0
	郡部	74 4.7	543 30.4	387 21.7	247 13.9	152 8.5	100 5.6	66 3.7	45 2.5	32 1.8	27 1.5	26 1.5	20 1.1	20 1.1	18 1.0	9 0.5	2 0.2	5 0.3	2 0.2	3 0.2	3 0.2	1781 100.0
	全国	151 5.8	939 36.3	541 21.0	309 12.0	189 7.3	117 4.5	84 3.3	52 2.0	40 1.5	31 1.2	28 1.1	25 1.0	23 0.9	20 0.8	11 0.4	4 0.2	6 0.2	3 0.1	5 0.2	4 0.2	2582 100.0
25~29	市部	85 12.2	321 45.9	129 18.5	74 10.6	26 3.7	15 2.1	9 1.3	7 1.0	11 1.6	3 0.4	3 0.4		5 0.7	2 0.3	2 0.3	3 0.4	2 0.3	1 0.1	1 0.1	1 0.1	700 100.0
	郡部	72 5.4	403 30.4	250 19.0	185 14.0	112 8.4	66 5.0	57 4.3	38 2.9	31 2.3	26 1.9	20 1.5	17 1.3	10 0.8	6 0.5	10 0.8	5 0.4	3 0.2	3 0.2	4 0.3	5 0.4	1323 100.0
	全国	157 7.8	724 35.9	379 18.7	259 12.8	138 6.8	81 4.0	66 3.4	45 2.2	42 2.1	29 1.4	23 1.1	17 0.8	15 0.7	8 0.4	12 0.6	8 0.4	5 0.2	4 0.2	5 0.2	6 0.2	2023 100.0

数表をながめていてもしょうがない

- ✓ 数表のごく一部だが、グラフ化してみる

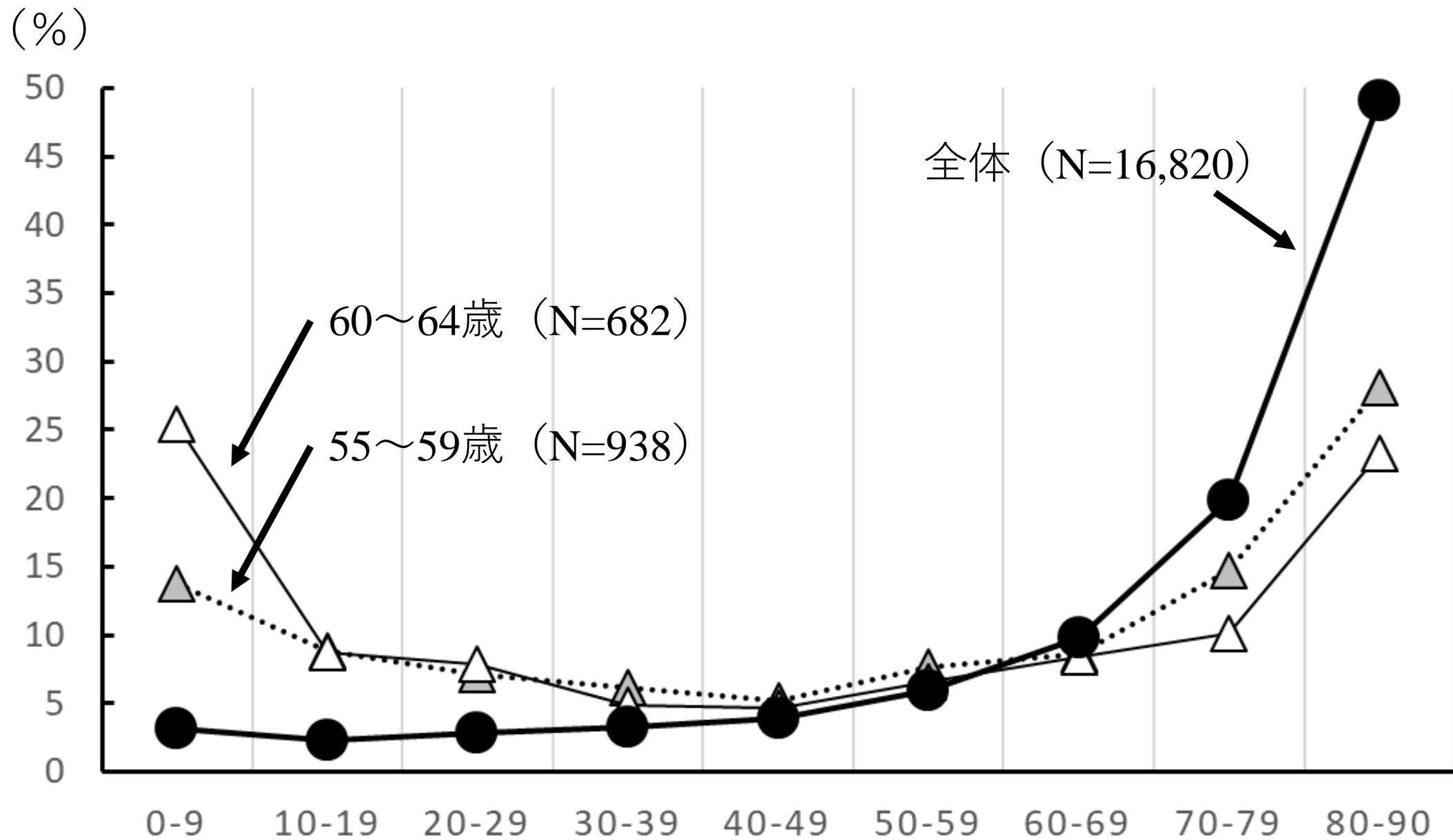


図1 得点分布 (全体 / 55歳から59歳 / 60歳から64歳)

報告書（1951）の結論として「提案」が明記されている
その冒頭部を示す（報告書429頁）

<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjalddl/yomikaki/011/PDF/ymkk-011.pdf>

§92 提 案

日本では、義務教育がよく普及し、就学率も極めて高く、国民教育のために払った努力も従来極めて大きなものであった。このために、まったく字の読み書きができないという者は極めて少ないのであるが、それにもかかわらず、「正常な社会生活を営むのにどうしても必要な文字言語を理解する能力」は決して高いとはいえない。literacy を持つといえる者は 6.2 % にすぎない。

得点のデータ（報告書588頁の一部） <https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjalddl/yomikaki/012/jpg/ymkk012-090.jpg>

- 配点は90問すべて1問1点、すなわち正答数が得点
- 得点ゼロだった人は1.7%、90点満点だった人は4.4%（下の表）

code		19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	09	08	07	06	05	04	03	02	01	00	
点 数		90	89 85	84 80	79 75	74 70	69 65	64 60	59 55	54 50	49 45	44 40	39 35	34 30	29 25	24 20	19 15	14 10	09 05	04 01	00	計
全 国	市部	372 6.9	1921 35.6	1042 19.3	594 10.9	355 6.6	247 4.6	143 2.7	117 2.2	81 1.5	62 1.2	63 1.2	57 1.1	62 1.2	53 1.0	41 0.8	36 0.7	40 0.7	31 0.6	15 0.3	50 0.9	5382 100.0
	郡部	360 3.1	2559 22.4	1981 17.3	1381 12.1	1004 8.8	717 6.3	547 4.8	443 3.9	357 3.1	271 2.4	251 2.2	220 1.9	226 2.0	199 1.7	175 1.5	177 1.5	134 1.2	92 0.8	101 0.9	243 2.1	11438 100.0
	地域	732 4.4	4480 26.7	3023 18.0	1975 11.7	1359 8.1	964 5.7	690 4.1	560 3.3	438 2.6	333 2.0	514 1.9	277 1.6	288 1.7	252 1.5	216 1.3	213 1.3	174 1.0	123 0.7	116 0.7	293 1.7	16820 100.0



ナゾその1：日本人の読み書き能力に関する「常識」に科学的根拠はあるのか？

1. 非識字者（完全文盲：ゼロ点の人）の割合は極めて少ない（1.7%）
 2. しかし、literacyを持つと見なせる識字者（90点満点の人）の割合は4.4%でしかない。
不注意などによる失点を考慮して割合を補正したとしても6.2%にすぎない
 3. 「正常な社会生活を営むのにどうしても必要な文字言語を理解する能力」は決して高いとはいえない、というのが1948年調査の結論
- この報告書（1951）は「日本人の読み書き能力は極めて高く世界トップクラス」という「常識」の科学的根拠とされてきた
 - しかし、その「常識」の妥当性については、専門分野の異なる研究者が協力して多様な観点から慎重に検討すべきである
 - この「常識」に対する疑問は勝岡寛次氏、茅島篤氏、佐藤寧氏、角知行氏などの論考（いずれも単著で紀要論文など）でも示唆されているが、社会調査や統計科学の研究者を含む異分野の共同研究チームが執筆した学会誌論文（査読付き）は横山・相澤・久野・高田・前田（2022）が初例

ナゾその2：日本の非識字率は世界の各国にくらべて極めて低いのか？

報告書（1951）には「日本の非識字率（文盲率）は世界の各国にくらべておそらく極めてひくい」という記述もある

しかし、非識字率を数値化する手法は多様であり、テストで測る際も難易度をそろえることは困難である

よって、1948年調査の非識字率を世界の各国と比べることはそもそもできないのではないか？

横山・相澤・久野・高田・前田（2022）の14～15ページ参照

ナゾその3：読み書き能力があるとは言えない人でもゼロ点にはならない可能性が十分にあったのではないか？

報告書（1951）に掲載された実際の問題を確認すると、

- アラビア数字や漢数字の簡単な問題も出題されていたこと
- 問題の7割以上が選択式問題なので当て推量で1点以上取れる確率が高い状況にあったこと

などが分かる。

よって、読み書き能力があるとは言えない人でもゼロ点にはならない可能性が十分にあったと考えるのが自然ではないか？

横山・相澤・久野・高田・前田（2022）の16ページ参照

ナゾその4：得点ゼロの人の大部分が白紙回答の人だったのはなぜか？

報告書（1951）は、得点ゼロの人を「無反応者つまり白紙回答の人」と「白紙回答ではないが正答ゼロの人」に区分している

白紙回答の人は1.6%、白紙回答ではないが正答ゼロの人は0.1%、あわせて1.7%が得点ゼロの人であった。すなわち、**得点ゼロの人の大部分（293人中262人で89.4%）は、当て推量の回答すらしなかった人たち**である

白紙回答の人のなかには、選択式問題において自信が持てない（確信度が低い）場合に当て推量などはせずに選択肢を選ばなかった人や、調査そのものへの反発や批判的意識を持っていた人などが少なからず含まれていたのではないか

よって、**その人たちの回答態度が、仮に確信度の低い場合でも選択式問題に回答しようとする方向に変容したとすれば、ゼロ点ではなくなる人も出てきた可能性は高く、白紙回答の人すべてをただちに非識字者と判定するのは妥当ではない**

横山・相澤・久野・高田・前田（2022）の19ページ参照

IV. 報告書（1951）ならびにその関連史料を世界中の研究者がいつでも簡単に閲覧できる環境整備が必要である。すなわち、オープンサイエンスの推進が重要

研究資料やデータのオープンアクセス化：国立国語研究所は、情報・システム研究機構の統計数理研究所やデータサイエンス共同利用基盤施設 社会データ構造化センターと協力しながら報告書（1951）の画像や関連資料をネット公開

- 『日本人の読み書き能力』（1951）の画像：
<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=yomikaki>
- GHQが作成した調査計画の英文文書：
<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=literacyrpen>
- その1948年の和訳：<https://dglb01.ninjal.ac.jp/ninjaldl/bunken.php?title=literacyrpjp>
- 関連する研究のプレプリント「日本人の読み書き能力1948年調査における非識字率と生年の関係」を科学技術振興機構のJxivで公開：<https://doi.org/10.51094/jxiv.73> ちなみに、プレプリントは最終版ではない。査読を通過した公刊版は学術雑誌『計量国語学』に掲載、そのデジタル版はエンバーゴ期間中
- 上記のクリエイティブ・コモンズ・ライセンスはいずれも「CC BY」

V. 読み書き能力調査に関する報道の一例

「識字調査、全国実施目指す 48年以來、学び直し促進へ」共同通信社

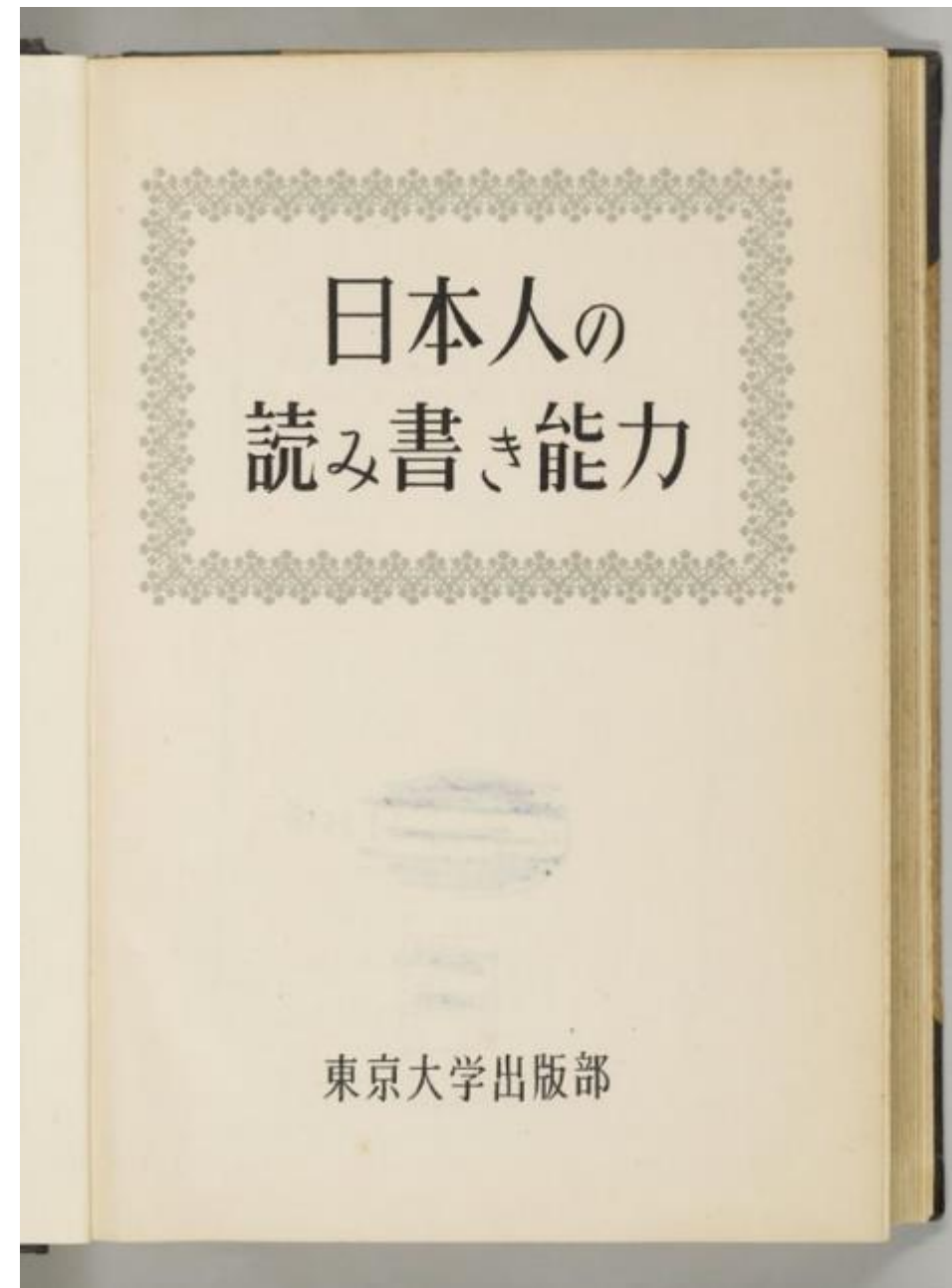
<https://news.yahoo.co.jp/articles/1d3eb926214bbde4e924cb6930c6f32849ce619b>

以下は参考資料：調査の方法など

日本人の読み書き能力1948年調査の報告書 (1951) について

- 1951年4月に初版、再版は同年7月
- 東京大学出版部（現在の東京大学出版会）から出版
- 900ページを超えると言われているが、今回点検したところ実際は750ページに達しないことがわかった
- 販売価格は1,800円

国家公務員初任給平均は1950年4,223円、2020年は185,200円、これをもとに1950年の1,800円を2020年の価値に変換すると約79,000円



だれに対して調査を実施したのか？

- 配給台帳等に基づく全国規模のランダムサンプリング
- 15歳（1933年生）から64歳（1884年生）までの男女**16,820人**（達成率80.0%）



実態をつかむ：代表性を保証するために必要な方法

どんな問題だったのか？

- 問題用紙の大きさ
ヨコ36.9センチ、タテ26.2センチ（ほぼB4判ヨコ）
- 問題用紙は6枚
- 文字は手書き、活字ではない

問題用紙の1枚目

以下の3問が印刷されていた

- 問題1 試験官の発音した語をひらがな、カタカナで書く（8問）
- 問題2 数字、漢数字の書き取り（2問）
- 問題3 試験官の発音した語を選択肢から選ぶ：表記はひらがな、カタカナ、数字、漢数字、5択（12問）

次のスライド参照



ネ	ネ	ネ	ネ	ネ	△
ヨ	コ	ビ	ロ	ユ	・

ガ	カ	ア	カ	ザ	△
ラ	ラ	ラ	ラ	ラ	・
ス	ス	ス	ス	ス	・

ミ	ミ	ミ	ミ	ミ	△
シ	シ	シ	シ	シ	・
ツ	レ	い	シ	ン	・

オ	オ	オ	オ	オ	△
モ	モ	モ	モ	モ	・
ツ	香	香	香	タ	・

マ	マ	マ	マ	マ	△
ア	チ	チ	マ	ン	・
チ	チ	チ	チ	チ	・

九	入	八	七	四	×
円	円	円	円	円	・

8キ	3キ	4キ	5キ	1キ	×
----	----	----	----	----	---

あ	あ	あ	あ	あ	○
ひ	ら	ゆ	た	な	・
ま	ま	ま	ま	ま	・

さ	も	ち	な	き	□
る	る	る	る	る	・

た	た	た	た	た	□
は	ば	ば	が	ゾ	・
こ	こ	こ	こ	こ	・

み	み	み	み	み	□
か	か	か	か	か	・
む	し	ソ	ん	あ	・

こ	こ	こ	こ	こ	□
ん	ん	ん	ん	ん	・
に	に	に	に	に	・

あ	あ	あ	あ	あ	□
さ	さ	さ	さ	さ	・
て	て	て	て	て	・

(三)

たいしやう に ねん はちがつ にじゅうはち にち
 ○大正2年8月 日

めいじ にじゅうはちねん くがつ じゅうろくにち
 明治28年9月 日

(二)

●●●●	●●●	●●	●	○

(一)

●●●●	●●●	●●	●	○

○ 三丁目 さんちやうめ に 番地 ばんち

○ 五丁目 ごちやうめ に 番地 ばんち

26.2cm

36.9cm

(六)

○朝太陽は

冬 東 雨 上
から出る。

病氣のときは

健康 死亡 危険
にみてもらう。

きょうは砂糖の

配給 産業 食糧 数量
があります。

わが國は米國から小麦を

資金 輸入 法案 声明
する。

選挙のときはもとよい人に

結果 発表 委員 投票
したい。

あの人の

態度 國民 各派 必要
は立派だ。

大会の日時を

労働 予算 決定 事件
した。

私は仕事がないからすぐ

年齢 就職 保険 経歴
したい。

米と

申込 記帳 差引
に豆が来る。

けさの地震は相当の

被害 確犯 場合
ある見込。

塩の

至急 高價 登録 家庭
のすまない方は早くして下さい。

この

意見 經濟 生産 問題
はもう解決された。

供出の

消費 金融 割当 放出
をきめる。

適当な

企業 措置 指定 提出
をとる。

組合に対する

政府 事情 講和 計画
の方針がきまった。

統制を

上程 該当 緩和 緩和
する。

全部で90問、選択式が65問。選択式で難度が一番高いのは問（八）

問題（一）試験官が発音した語をひらがな、カタカナで書く（8問）

問題（二）試験官が発音したアラビア数字、漢数字を書く（2問）

問題（三）試験官が発音した語を選択肢から選ぶ：表記はひらがな、カタカナ、漢数字、アラビア数字、5択（12問）→ここまでが問題用紙の1枚目

問題（四）試験官が発音した語を選択肢から選ぶ：表記は漢字、5択（10問）

問題（五）漢字の書き取り（15問）→問題用紙の2枚目（正答率が低い問題群）

問題（六）意味が通じる語を選択肢から選ぶ：表記は漢字、4択（15問）→問題用紙の3枚目

問題（七）語の意味を選択肢から選ぶ：問題語の表記は漢字、選択肢はひらがな、カタカナ、ルビ付き漢字、5択（15問）→問題用紙の4枚目

問題「（八）の一」と「（八）の二」読解問題で正答を選択肢から選ぶ：問題文と選択肢は漢字仮名交じり、5択（9問）と4択（4問）→問題用紙の5枚目と6枚目

✓ 問題（八）だけ枝番があり、問題用紙6枚のうち2枚を占め（全体の33%）、与えられた時間も15分間（全体の25%）→ボリューム感がある

東京都立看護婦養成所生徒募集

一、受験資格 甲種 高等女学校卒業

者又はこれと同等以上の学力ある二十五才以下の女子

乙種 小学校高等科卒業者又はこれと同等以上の学力ある二十五才以下の女子

一、修業年限 甲種 三年 乙種 二年

(問一) 今年高等女学校を出たばかりの十八才の人はこの試験を受けることができませんか。

(答) できない。三年前ならできた。もう七年まで聞いてみないとわからない。

(問二) 小学校の高等科を出ただけの人は、この養成所へ入ってから卒業するまでに何年かかりますか。

(答) 八年、六年、五年、三年、二年。

今年の米の収穫は、天候不順のため、相当の減収を免れまいした

(問一) 相当の減収を免れまいとはどういうことですか。

(答) 米の収穫はかなり減りそうだが、米の収穫はあまり減らない。米の収穫は多いほどよい。米の収穫が減っては困る。

が、それに対する方策を誤るならば、そうでなく

(問二) それとは何を言いますか。

(答) 今年の方策減収世相

てさえ不安定な世相を一層悪化

(問三) そうでなくしてさえとはどういうことですか。

(答) 米がとれなくても来年になっても天候が不順でも米がふつうにとれても世の中はこれ以上悪くならない。世の中はもと悪くなるかもしれない。世の中をこれ以上悪くしてはならない。世の中がもと悪くなくても心配ない。

せしめるおそれなしとし

(問四) 世相を一層悪化せしめるおそれなしとしとはどういうことですか。

(答) 世の中はこれ以上悪くならない。世の中はもと悪くなるかもしれない。世の中をこれ以上悪くしてはならない。世の中がもと悪くなくても心配ない。

東京都立看護婦養成所生徒募集

一、受験資格 甲種 高等女学校卒業

者又はこれと同等以上の学力ある二十五才以下の女子

乙種 小学校高等科卒業

業者又はこれと同等以上の学力ある二十五才以下の女子

一、修業年限 甲種 三年

乙種 二年

(問一) 今年高等女学校を出たばかりの十八才の人はこの試験を受けることができませんか。

(答)

できない
できる
三年前ならできた
もう七年までばできる
聞いてみないとわからない

(問二) 小学校の高等科を出ただけの人はこの養成所へ入ってから卒業するまでに何年かかりますか。

(答)

八年
六年
五年
三年
二年

ナゾその5：この調査に関する金田一春彦（1988）岩波新書『日本語 新版（下）』の証言は正しいのか？

1948年調査の専門委員として作問や調査実施に従事した金田一春彦は、岩波新書『日本語 新版（下）』（1988）の冒頭部で次のように述べている

- ✓ 満点は100点
- ✓ ある人が「はる」という選択肢を選んで正解した
- ✓ 第一問は平仮名が読めるか、第二問はカタカナが読めるかであった

しかし、報告書のデジタル画像を確認すると、

- 満点は90点
- 選択肢に「はる」は存在しない
- 問題（一）の最初の4問がひらがなで次の4問がカタカナ、いずれも書き取り問題であった

https://doi.org/10.32281/jasbel.6.0_11（J-STAGEで公開）の論文PDFの26ページ注（19）参照

まとめ

- 1948年調査の非識字率を世界の各国と比べることはそもそもできない
- 読み書き能力があるとは言えない人（すなわち非識字者）でもゼロ点にはならない可能性が十分にあった → 真の非識字者率は報告書で示された数値より **高かった** のではないか？
- 一方、ゼロ点の人の大部分を占める白紙回答の人すべてをただちに非識字者と判定するのは妥当ではない → 真の非識字者率は報告書で示された数値より **低かった** のではないか？
- 報告書に書かれていることは、世間一般に広がっている常識とは大きく異なる
- 報告書の結論は「まったく字の読み書きができない者は極めて少ないのであるが、それにもかかわらず、「正常な社会生活を営むのに必要な文字言語を理解する能力」は決して高いとはいえない。Literacyを持つといえる者は6.2%にすぎない」